

(1)事業の概要等

事業番号	B0702-1
実施計画事業	
実施計画事業以外の事業	

令和5年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	地区組織活動事業					担当部			健康生きがい 支え合い推進部		
	事業期間	昭和63年度以前	～	令和7年度以降		担当課			保健センター			
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本 施策	7	展開 方向	2	担当係			成人保健係		
	予算区分	一般会計	款	4	項	1	目	4	大	3	中	3
	根拠法令 ・個別計画	・健康日本21 ・健康こまきいきいきプラン					事業種別			一般事業		
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	■目的:居住する地区において、住民の健康状態の把握や健康づくりに関する取組みを実施し、地域の人々が健康で生き生きとした生活を営むことができるよう、その担い手となるボランティアを育成・支援します。										
	対象 (何・誰を対象に)	■市民 ■保健連絡員(R4 129行政区中121区設置 244人) ■食生活改善推進員(R4 32人)										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	手段 ■保健連絡員の養成講座:地域で健康づくりの啓発活動等ができるボランティアを育成。新規ボランティアに対して行い、6圏域に分け学習会を実施。(R4 延べ244人) ■保健連絡員による地域での健康づくり活動の実施(R4 地区健康展__6地区1,227人参加、ウォーキング大会1地区282人参加等) ■保健連絡員による赤ちゃん訪問の実施:保健連絡員が地域で生まれた赤ちゃんを訪問し、お祝い品を手渡し、相談窓口の情報提供及び地域での見守りを行いました。(R4 948件) ■食生活改善推進員(ヘルスマイト)養成講座:地域で食に関する知識の普及啓発を行うボランティアを育成(R4 32人参加) ■食生活改善推進員活動を展開:広報への減塩等ヘルシーメニューの掲載(年6回)、シニアを対象とした低栄養予防に関する教室の開催(年1回)、生活習慣病予防に関する教室の開催(年1回)										
受益者負担	なし											

(2)事業費

		項目	単位等	R1	R2	R3	R4	R5	
直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	5,394	3,458	2,664	3,114	
			国・県支出金	千円	920	920	920	920	
			その他	千円	1,063	0	13	1,697	
			計(A)	千円	7,377	4,378	3,597	5,731	
		対前年比	%	—	59.3%	82.1%	159.3%		
		予算額	千円	8,434	8,214	7,319	7,139	7,003	
人件費		正規職員	人	2.70	2.70	2.70	2.70		
		正規職員(平均賃金)	千円	20,212	20,212	20,212	20,212		
		その他職員	人						
		その他職員(時給×時間)	千円						
		計(B)	千円	20,212	20,212	20,212	20,212		
事業費合計(C=A+B)			千円	27,589	24,590	23,809	25,943		

(3)業績

展開方向における指標の推移			基本施策	7		展開方向	2	
指標名	単位	方向性	基準値	R2	R3	R4	R5	
1								
2								
3								

指標	指標ほか		単位	R1	R2	R3	R4	R5	
	成果指標	健康展参加者数	人	目標	↗	↗	↗	↗	
				実績	2,097	0	70	1,227	
	活動指標	健康展実施回数	回	目標	→	→	→	→	
				実績	19	0	2	14	
	活動指標	赤ちゃん訪問実施件数	件	目標	↗	↗	↗	↗	
				実績	920	823	614	948	
	単事業費あたり	受益者数(a)		人	3,036	823	686	2,189	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	9,087	29,878	34,707	11,851	

(4)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの					
	事業の達成状況と課題	<p>地区組織活動事業では、保健連絡員をはじめとする健康づくりボランティアが自分の健康は自分自身で守るとともに、地域の健康づくりを心掛け、地域を見守り、地域の健康力を上げるという意識で活動ができるよう、保健センター職員(専門職)による育成や活動の支援を行っており、保健連絡員の意識の向上がみられる。波及効果として、その活動は保健連絡員の周囲にも少しずつではあるが広がっている。</p> <p>本事業の課題としては、様々な健康づくりボランティアの成り手不足が上げられ、この対策について検討が必要と考える。</p> <p>令和4年度はコロナ禍ということもあり、その情勢を考慮しつつ、課題を捉え、工夫しながら実施した結果、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、年々減少傾向であった実績は増加傾向を示す結果となった。</p>						
	今後の実施内容	<p>今後ますます高齢化が加速する中、住み慣れた地域でいくつになっても元気で自分らしく過ごすことができるよう、健康づくりに関する取組みが必要である。</p> <p>本事業は、市職員のみならず、市が育成する健康づくりボランティアと一緒に実施する事業であり、地域住民が地域の健康づくりに関心を持ち、地域にあった活動を実施することで、健康に関する地域力の向上を図る効果があることから、本事業は今後も継続が必要であると考えます。</p>						
	事務事業評価による額	千円		節	細節		細々節	